

# 県内経済概況

2013年6月

2013年7月10日

株式会社 **滋賀銀行**  
株式会社 しがぎん経済文化センター

《ご参考》

県内景気の基調判断の推移

【県内景気天気図】		12.1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13.1	2	3	4	5	6
現在の景気	●=前月比上昇・好転 ▲=前月比横ばい ×=前月比下降・悪化	▲	▲	●	●	●	▲	▲	▲	▲	×	×	▲	▲	●	●	▲	●	▲
3か月後の景気		▲	●	●	▲	▲	▲	▲	▲	×	×	×	▲	▲	●	●	●	●	▲
生産活動		×	×	●	×	●	▲	×	▲	×	×	×	×	×	●	●	×	●	▲
個人消費		▲	▲	●	●	×	▲	▲	▲	▲	×	×	●	●	×	▲	▲	▲	×
民間設備投資		●	●	×	▲	●	×	●	●	×	●	×	×	×	●	●	×	●	●
住宅投資		×	●	●	×	●	●	×	×	●	●	×	●	×	×	●	●	●	●
公共投資		×	●	●	×	●	●	●	●	×	×	●	×	●	×	▲	●	●	●
雇用情勢		▲	▲	▲	▲	▲	▲	×	×	▲	×	×	▲	▲	▲	●	▲	●	●

【県内主要経済指標】		12.1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13.1	2	3	4	5	6
鉱工業生産指数	季調済・前月比	●	×	●	×	×	●	×	×	×	×	×	●	●	×	●	●		
可処分所得	前年比	×	×	×	×	●	●	●	●	●	●	●	×	×	×	×	●	●	
家計消費支出	前年比	×	×	×	×	×	●	●	×	●	●	●	×	●	●	●	●	●	
大型小売店販売額	店舗調整前・前年比	×	●	●	×	×	×	×	●	×	×	●	●	×	×	×	×	×	
乗用車新車登録台数	2車種計・前年比	●	●	●	●	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	●	×	
民間非居住建築物床面積	3業用計・前年比	●	×	●	●	×	●	●	×	●	×	×	×	●	●	×	●	●	
新設住宅着工戸数	前年比	●	●	×	●	●	×	×	●	●	×	●	×	×	●	●	●	●	
公共工事請負金額	前年比	●	●	×	●	●	●	●	×	×	●	×	●	×	×	●	●	●	
新規求人倍率	季調済・前月比	×	●	×	●	▲	●	×	●	×	×	●	●	×	●	●	●	×	
有効求人倍率	季調済・前月比	●	●	▲	●	●	×	▲	●	▲	▲	▲	●	●	●	▲	●	●	
常用雇用指数	全産業・前年比	▲	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	●	●		
所定外労働時間指数	製造業・前年比	×	×	●	●	●	×	●	●	×	×	●	●	●	×	×	●		
常用労働者の賃金指数	名目・前年比	●	×	●	●	●	●	×	×	×	×	●	×	●	×	▲	×		
企業倒産	負債総額・前年比(逆)	●	●	●	●	×	×	×	●	●	×	×	●	×	●	●	×	×	●

●=前年比・前月比プラス、▲=同横ばい、×=同マイナス。ただし、「企業倒産」は逆表示。

《使用データについての注意事項》

・「2. 生産」の図3の「鉱工業指数」（全国）のデータは、2010年=100に基準改正され、それに伴い遡及変更しています。

## 1. 概況…上向きつつあるものの、弱含みの状態

### 県内景気の現状

県内製造業の生産活動の現状を鉱工業生産指数で見ると、原指数は9か月連続で前年を下回り、季節調整済指数は精密機械や窯業・土石などが前月に比べ上昇したため2か月連続のプラスとなっているものの伸び率は鈍化し、3か月移動平均値は4か月ぶりの微減となり横ばいで推移している。

需要面では、大型店売上高はウエートの高い飲食料品が再び前年を下回り、衣料品をはじめ家電機器や身の回り品でも伸び悩んだため、全店ベース、既存店ベースともに5か月連続の前年比マイナスとなり、マイナス幅も拡大している。また、前月、8か月ぶりにプラスに転じた乗用車の新車登録台数は再び前年を下回り、力強さに欠けた動きとなっている。一方、民間非居住用建築着工床面積でみた民間設備投資は商業用とサービス業用が前年を大きく上回り3業用計では2か月連続の大幅プラスとなり、新設住宅着工戸数も貸家と分譲マンションが伸び悩んだものの、持家と一戸建て分譲が好調に推移したため全体では4か月連続のプラスとなっている。また、公共工事は請負件数、金額ともに3か月連続で前年を上回っている。

このような状況下、雇用情勢をみると、新規求人数が8か月連続の大幅プラス、一方、新規求職者数は3か月連続のマイナスとなったため、新規求人倍率は前月と同じ高水準を維持し、有効求人倍率も2か月連続で前月を上回った。しかし、水準は28か月連続で全国レベルを大きく下回っている。

これらの状況をまとめると、生産活動は回復に向けて動き出しているものの横ばいとどまり、需要面では民間設備投資や住宅投資、公共投資に堅調な動きがみられるが、個人消費に引き続き厳しさが残り、伸び悩んでいるため、県内景気の現状は上向きつつあるものの、弱含みの状態にあるとみられる。

### 今後の景気動向

県内製造業の生産活動については、引き続き堅調な情報機器関連や省エネ設備関連に加え、消費税率引き上げ前の駆け込み需要関連の内需は比較的堅調に推移し、中国などの新興国の景気には減速感がみられるものの、本格的な回復が期待される米国景気の復調を受け、電気機械や一般機械、輸送機械などの輸出関連が堅調に推移し、全体的に徐々に持ち直しの動きが広まるものと思われる。

需要面では、個人消費については、乗用車をはじめとする大型の耐久消費財が本格的な景気回復への期待感に加え、上記の駆け込み需要から上向きはじめてくると考えられるが、飲食料品や日用品などの最寄り品については円安に伴う値上げや光熱費の上昇などから節約志向が依然根強く、弱含みの推移にとどまるものと思われる。また、民間設備や住宅着工などの投資関連では、投資マインドは徐々に改善に向かうものの、秋頃には上記の駆け込み需要の終息が想定されることにより、一転、伸び悩みが懸念される。

したがって、今後の県内景気は、生産活動においては徐々に持ち直しの動きが広まると思われるものの、安倍政権の「成長戦略」の実体経済への波及効果は限られ、需要面での回復に向けての動きも弱含みにとどまるため、全体的にはぜひ弱な持ち直しの動きが続くものと思われる。

## 生産…「鉱工業生産指数」（3か月移動平均値）は4か月ぶりの微減

2013年4月の県内製造業の生産状況は、鉱工業生産指数(2005年=100)の「原指数」が99.1、前年同月比-2.1%と、9か月連続で前年を下回り、「季節調整済指数」は99.9、前月比+0.3%で、前月に続きプラスとなっているものの伸び率は鈍化した。この結果、鉱工業全体の季節調整済指数の3か月移動平均値(3月)は99.2、前月比-0.1%で、4か月ぶりの微減となり横ばいで推移している。

業種別(中分類)に4月の季節調整済指数の水準をみると、「鉄鋼」や「繊維」「その他」などは低いものの、「電気機械」や「精密機械」「窯業・土石」「化学」などは高水準が続いている。また、前月と比べると、「鉄鋼」と「金属製品」は大幅に低下したが、「精密機械」と「窯業・土石」は大幅に上昇した。

4月の鉱工業の「出荷指数」と「在庫指数(製品在庫)」を前年比でみると、出荷は11か月連続で前年を下回り(原指数90.4、前年同月比-5.6%)、在庫は6か月連続のマイナスとなっているため(同103.0、同-3.7%)、在庫循環図では引き続き“在庫調整局面”にある。今後の動向が注目される。

## 個人消費…「大型店売上高」は5か月連続の前年比マイナスで、マイナス幅も拡大

5月の「消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)(大津市)(2010年=100)」は99.6、前年同月比+0.5%、前月比+0.1%となり、前年比では5か月ぶりのプラス、前月比でも3か月連続のプラスとなっている。エネルギー(電気代、ガス、灯油、ガソリン)は電気代が大幅上昇したため(前年同月比+13.9%、前月比+12.8%)、大きく上昇した(前年同月比+6.1%、前月比+4.9%)。「可処分所得(同)」は前月に続き前年を大きく上回り(前年同月比+17.9%)、「家計消費支出(同)」は5か月連続のプラスとなっている(同+13.3%)。なお、「毎月勤労統計調査」における4月の「名目現金給与総額(事業所規模30人以上、2010年=100)」は82.8、同-0.6%で、再び前年を下回り、一進一退の推移となっている。

このような所得・消費環境のなか、5月の「大型店売上高(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は93店舗)」は前年同月比-1.3%で5か月連続のマイナスとなっている。品目別でみると、「家庭用品」は再びプラスとなったものの(同+0.9%)、ウエートの高い「飲食料品」が再び前年を下回り(同-0.3%)、「衣料品」(同-7.2%)と「家電機器」(同-8.2%)はともに6か月連続、「身の回り品」(同-4.0%)も5か月連続のそれぞれマイナスとなっている。また、「既存店ベース(=店舗調整後)」の売上高も5か月連続で前年を下回り、マイナス幅も拡大している(同-0.7%→同-1.3%→同-2.7%)。

5月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」は、「普通乗用車(3ナンバー車)」が再び前年を下回り(1,270台、前年同月比-1.9%)、「小型乗用車(5ナンバー車)」も大幅のマイナスとなったため(1,131台、同-12.8%)、2車種合計では再びマイナスとなった(2,401台、同-7.4%)。今後の動向が注目される。また、「軽乗用車」は4か月連続の大幅マイナスとなっている(1,740台、同-16.5%)。ただ、前年同月の実績がエコカー補助金の効果で高いため大幅のマイナスとなったもので、水準自体は高い。

## 民間設備投資…「民間非居住用建築着工床面積」は、2か月連続の大幅プラス

民間設備投資と関連の深い「民間非居住用建築着工床面積」(5月)は44,870㎡、前年同月比+53.9%で、2か月連続の大幅プラスとなった。業種別にみると、「鉱工業用」は3か月連続のマイナスとなっているものの、「商業用」と「サービス業用」が前年を大きく上回った(「鉱工業用」：6,401㎡、同-38.9%、「商業用」：24,238㎡、同+88.7%、「サービス業用」：14,231㎡、前年比+144.4%)。

また、5月のトラック新車登録台数は、「普通トラック(1ナンバー車)」は5か月ぶりのプラスとなり(85台、同+1.2%)、「小型四輪トラック(4ナンバー車)」も2か月連続の大幅プラスとなったため(147台、同+16.7%)、2車種合計では前月に続きプラスとなった(232台、同+10.5%)。

## 新設住宅着工…4か月連続の前年比プラス

5月の「新設住宅着工戸数」は738戸、前年同月比+1.1%で、4か月連続のプラスとなっている。利用関係別でみると、「持家」は449戸、同+17.8%で9か月連続かつ大幅のプラスとなり、好調に推移している。一方、「貸家」は131戸、同-20.6%で、4か月ぶりに前年を大きく下回った。「分譲住宅」も前月と同じ157戸、同-14.7%で、これも4か月ぶりの大幅マイナスとなった。分譲住宅の内訳をみると、「一戸建て」は7か月連続で前年を大きく上回っているものの（110戸、前年差+18戸）、「分譲マンション」は3か月ぶりに前年を下回った（47戸、同-45戸）。なお、給与住宅は1戸。

## 公共工事…3か月連続で請負件数、金額ともにプラス

5月の西日本建設業保証(株)の保証による公共工事の請負件数と金額は、155件(前年同月比+44.9%)、約128億円(同+5.3%)で、件数、金額ともに前年を上回った。件数は4か月連続、金額は3か月連続のプラス。請負金額を発注者別で多い順から並べると、「市町村」(約68億円、同+140.4%)、「県」(約30億円、同+69.1%)、「国」(約14億円、前年同月の31.2倍)、「独立行政法人」(約9億円、同-36.6%)、「その他」(約7億円、同-88.9%)。

## 雇 用…「有効求人倍率」は2か月連続で前月を上回る

5月の「新規求人数(パートを含む)」は7,775人(前年同月比+12.5%)で、8か月連続の大幅プラスとなり、一方、「新規求職者数(同)」は7,205人(同-5.7%)で、3か月連続のマイナスとなっている。この結果、「新規求人倍率(パートを含む、季節調整済値)」は1.24倍で、前月と同水準となり(前月差-0.01ポイント)、「有効求人倍率(同)」は0.75倍となり2か月連続で前月を上回ったが(同+0.01ポイント)、全国レベル(0.90倍)を28か月連続で大きく下回っている(-0.15ポイント)。

産業別の「新規求人数」をみると、「製造業」が5か月ぶりに前年を大きく下回ったものの(1,104人、同-11.3%)、ウエートの高い「医療、福祉」が4か月連続のプラスとなっている(1,372人、同+9.4%)のをはじめ、「建設業」は18か月連続(443人、同+20.1%)、「卸売業、小売業」は12か月連続(990人、同+21.9%)、「サービス業」も2か月連続のプラスとなっている(1,161人、同+23.0%)。

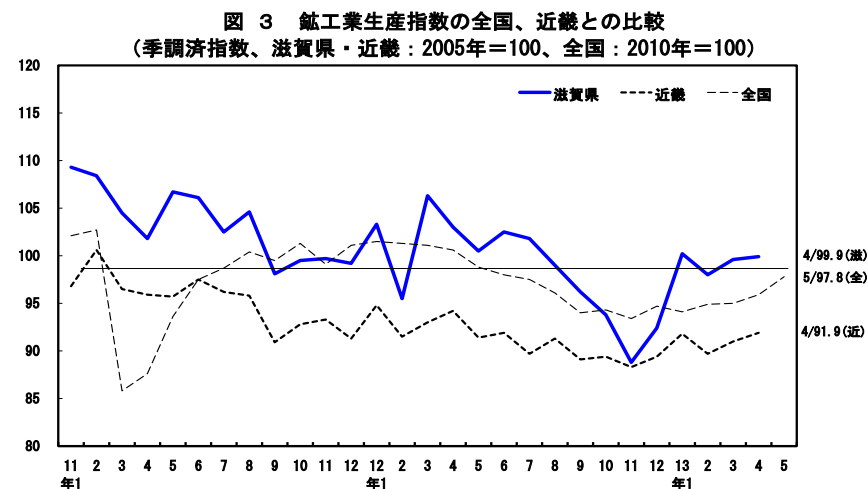
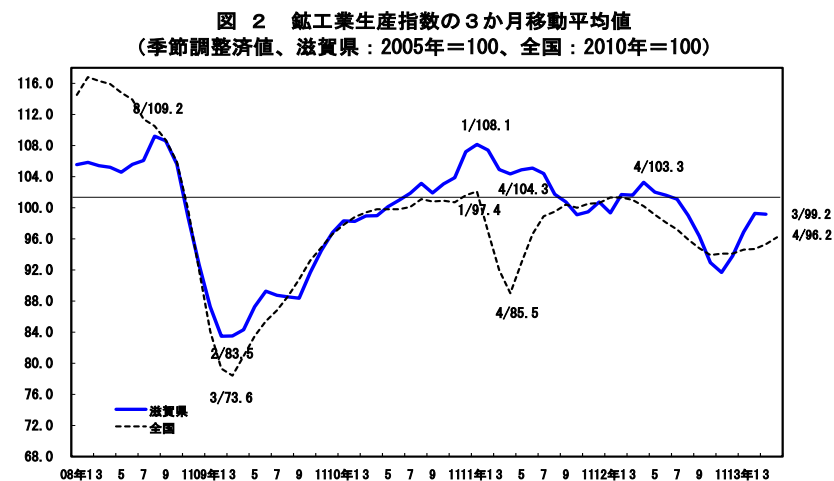
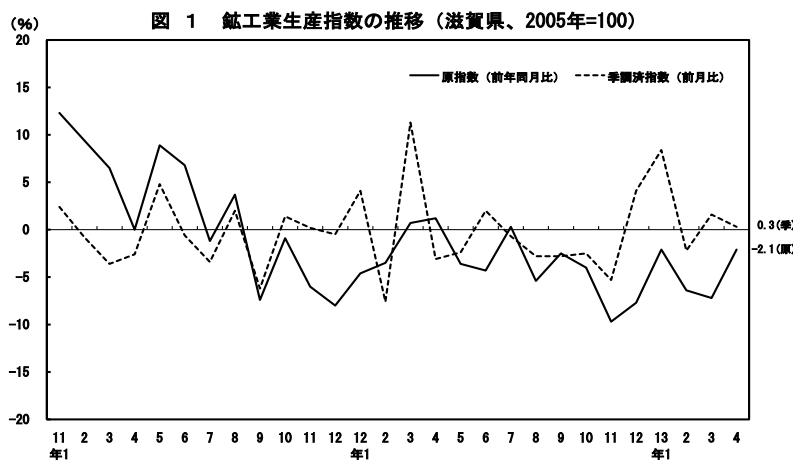
「常用雇用指数(事業所規模30人以上、2010年=100)」は、4月101.8、同+0.7%で、3か月連続のプラスとなっている。また、「製造業の所定外労働時間指数(同)」は115.6、同+2.2%で、3か月ぶりに前年を上回った。

## 倒 産…件数は8か月連続の一ケタ、負債総額は大幅減

(株)東京商工リサーチ滋賀支店のまとめによる6月の「負債金額100万円以上」の倒産件数は6件(前年差-10件)で前年を大きく下回り、8か月連続の一ケタで推移し、負債総額は約716百万円(同-1,002百万円)で、負債総額10億円超の大型倒産はなく、前年を大きく下回った。業種別では「建設業」と「サービス業、他」が各2件ずつ、原因別では「販売不振」が最も多い(4件)。資本金別では6件のうち4件が「1千万円未満」。

## 2. 生産…「鉱工業生産指数」（3か月移動平均値）は4か月ぶりの微減

2013年4月の県内製造業の生産状況は、鉱工業生産指数(2005年=100)の「原指数」が99.1、前年同月比-2.1%と、9か月連続で前年を下回り、「季節調整済指数」は99.9、前月比+0.3%で、前月に続きプラスとなっているものの伸び率は鈍化した(図1、巻末の県内経済指標NO. 1)。この結果、鉱工業全体の季調済指数の3か月移動平均値(3月)は99.2、前月比-0.1%で、4か月ぶりの微減となり横ばいで推移している(図2)。



業種別(中分類)に4月の季調済指数の水準をみると(図4、図5、図6)、「その他」(46.0)や「鉄鋼」(77.8)、「繊維」(82.2)などは低いものの、「窯業・土石」(112.0)や「精密機械」(111.0)、「化学」(110.0)、「電気機械」(108.5)などは高水準が続いている。

また、前月と比べると、「金属製品」(前月比-11.1%)と「鉄鋼」(同-6.2%)は大幅に低下したが、「精密機械」(同+14.6%)と「窯業・土石」(同+10.6%)は大幅に上昇した。

図4 業種別の鉱工業生産指数の推移①  
(季調済指数、2005年=100)

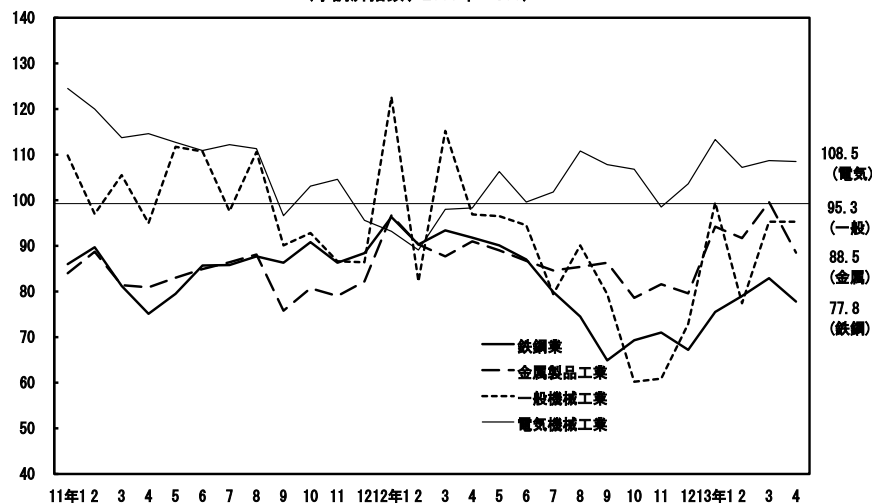


図5 業種別の鉱工業生産指数の推移②  
(季調済指数、2005年=100)

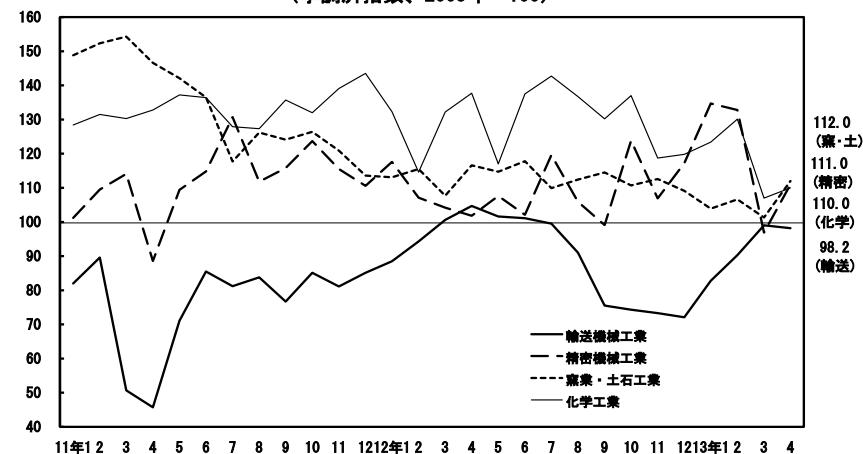
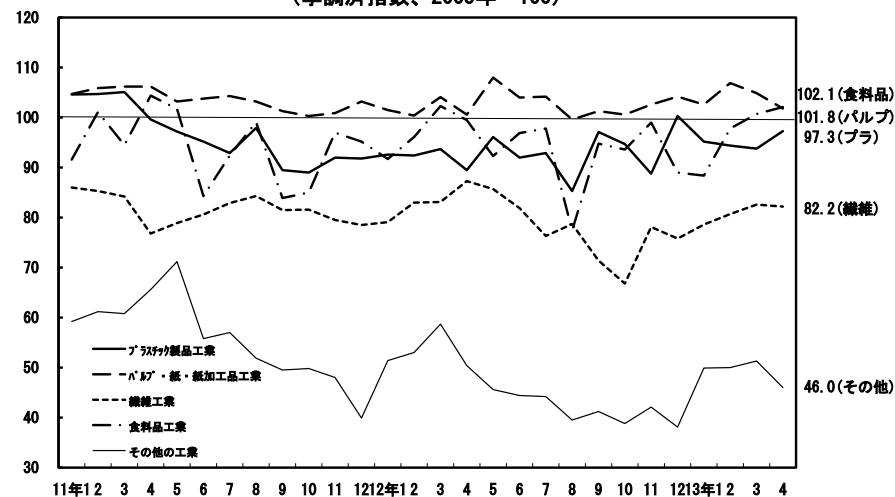
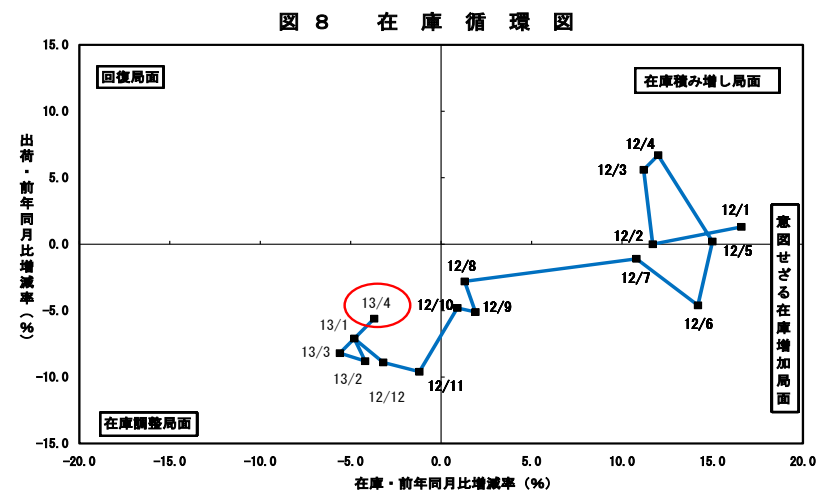
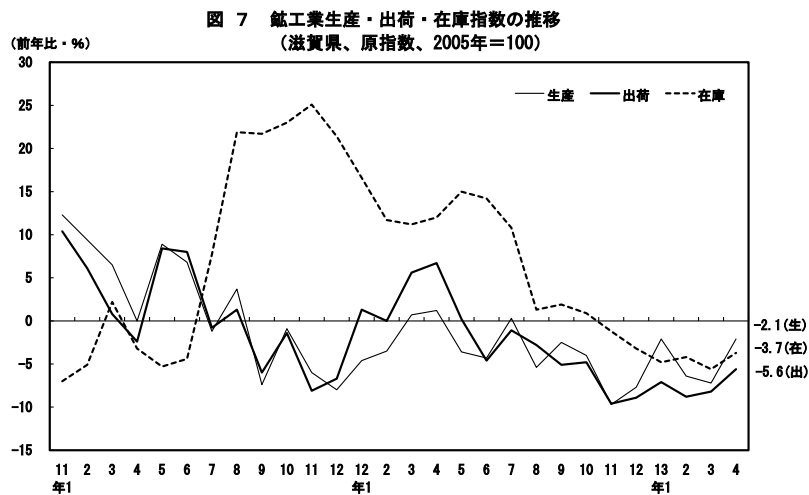


図6 業種別の鉱工業生産指数の推移③  
(季調済指数、2005年=100)



4月の鉱工業の「出荷指数」と「在庫指数（製品在庫）」を前年比で見ると（図7、県内経済指標NO. 1）、出荷は11か月連続で前年を下回り（原指数90.4、前年同月比-5.6%）、在庫は6か月連続のマイナスとなっているため（同103.0、同-3.7%）、在庫循環図では引き続き“在庫調整局面”にある（図8）。今後の動向が注目される。





### 3. 個人消費…「大型店売上高」は5か月連続の前年比マイナスで、マイナス幅も拡大

5月の「消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)(大津市)(2010年=100)」は99.6、前年同月比+0.5%、前月比+0.1%となり、前年比では5か月ぶりのプラス、前月比でも3か月連続のプラスとなっている(図9)(経済指標NO. 2)。肉類や調理食品や飲料、履物類などは前年比、前月比ともに下落したが、外食や家事雑貨、シャツ・セーター類、下着類、教養娯楽用耐久財などが上昇した。なお、エネルギー(電気代、ガス、灯油、ガソリン)は電気代が大幅上昇したため(前年同月比+13.9%、前月比+12.8%)、大きく上昇した(前年同月比+6.1%、前月比+4.9%)。今後の動向を注視する必要がある。なお、食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合(いわゆる「コアコア指数」)でみると、前年同月比-0.1%、前月比+0.4%となり、前月比では3か月連続のプラスとなっているものの前年比では8か月連続のマイナスとなり、比較的落ち着いた動きとなっている。

5月の「可処分所得(同)」は前月に続き前年を大きく上回り(前年同月比+17.9%)、「家計消費支出(同)」は5か月連続のプラスとなっている(同+13.3%)(図10)(経済指標NO. 2)。品目別にみると、調理食品やシャツ・セーター類、保健医療、自動車等維持、教養娯楽サービスなどの費用は減少したが、肉類や外食、家庭用耐久財、洋服、通信、教養娯楽用品などの費用は増加した。

なお、「毎月勤労統計調査」における4月の「名目現金給与総額(事業所規模30人以上、2010年=100)」は82.8、同-0.6%で、再び前年を下回り、一進一退の推移となっている(経済指標NO. 6)。

図9 消費者物価指数の推移  
(大津市、2010年=100、生鮮食品を除く総合)

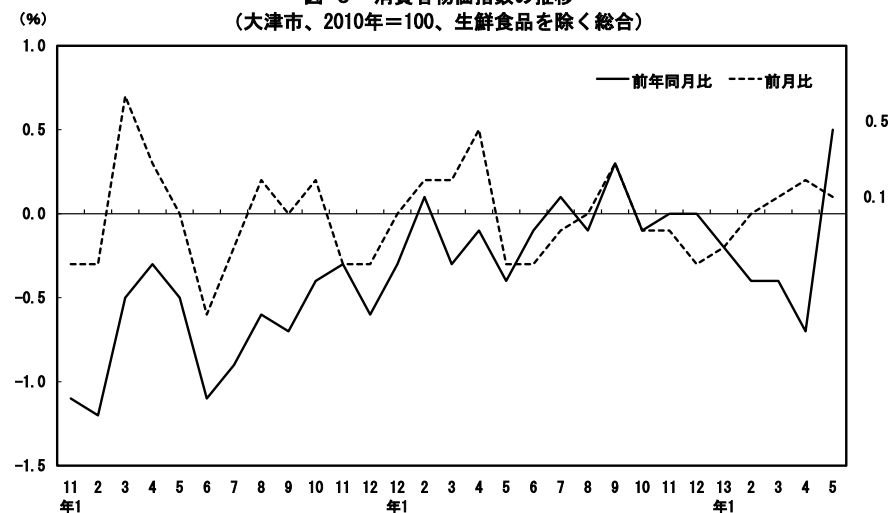
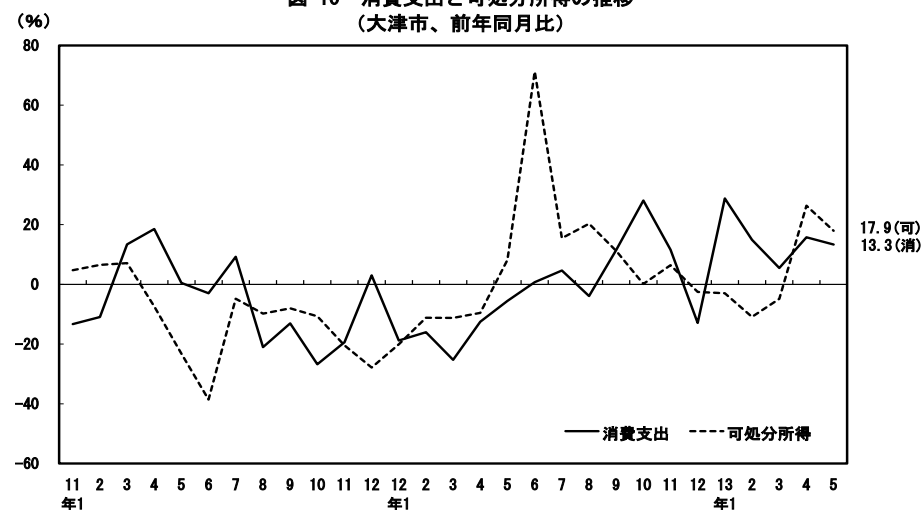
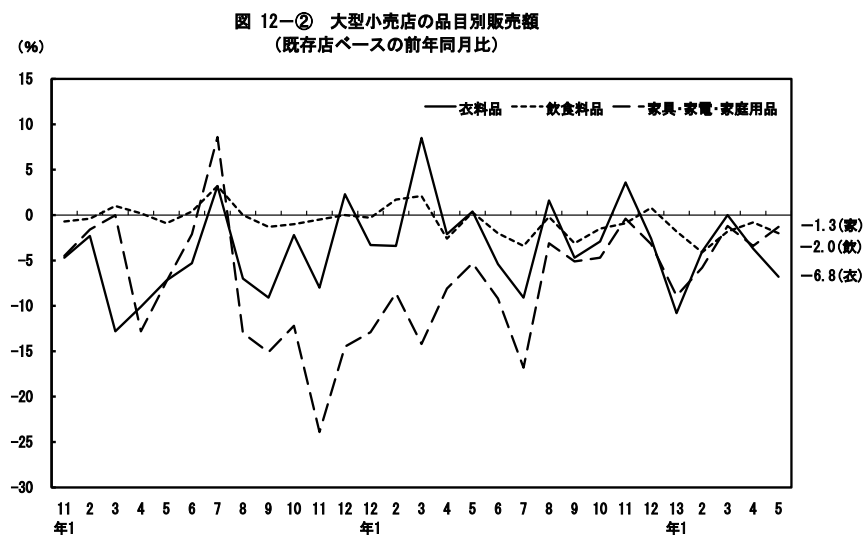
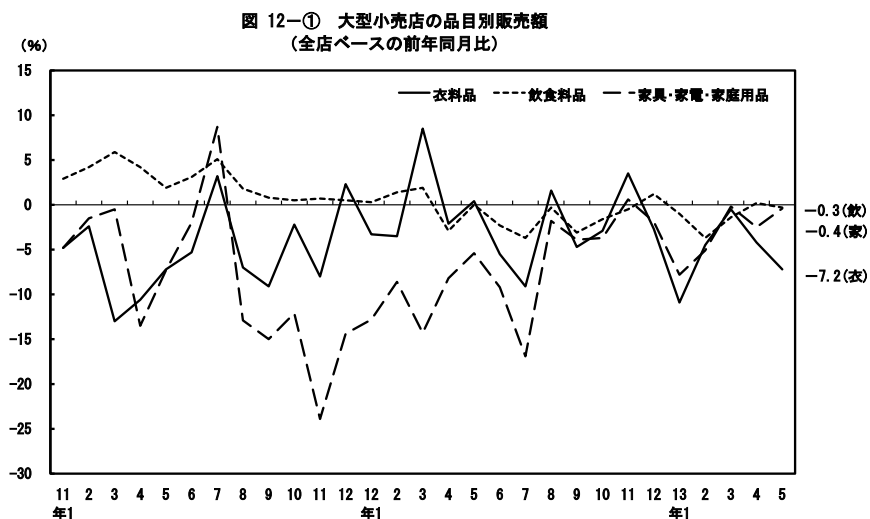
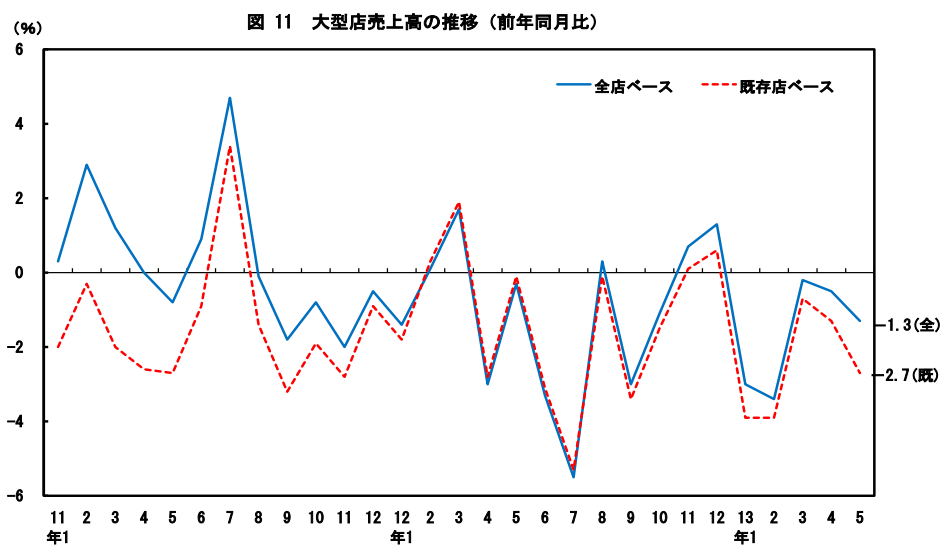


図10 消費支出と可処分所得の推移  
(大津市、前年同月比)



このような所得・消費環境のなか、5月の「大型店売上高(全店ベース＝店舗調整前、対象店舗数は93店舗)」は前年同月比-1.3%で5か月連続のマイナスとなっている(図11、経済指標NO. 2)。品目別でみると(図12-①)、「家庭用品」は再びプラスとなったものの(同+0.9%)、ウエートの高い「食料品」が再び前年を下回り(同-0.3%)、「衣料品」(同-7.2%)と「家電機器」(同-8.2%)はともに6か月連続、「身の回り品」(同-4.0%)も5か月連続のそれぞれマイナスとなっている。

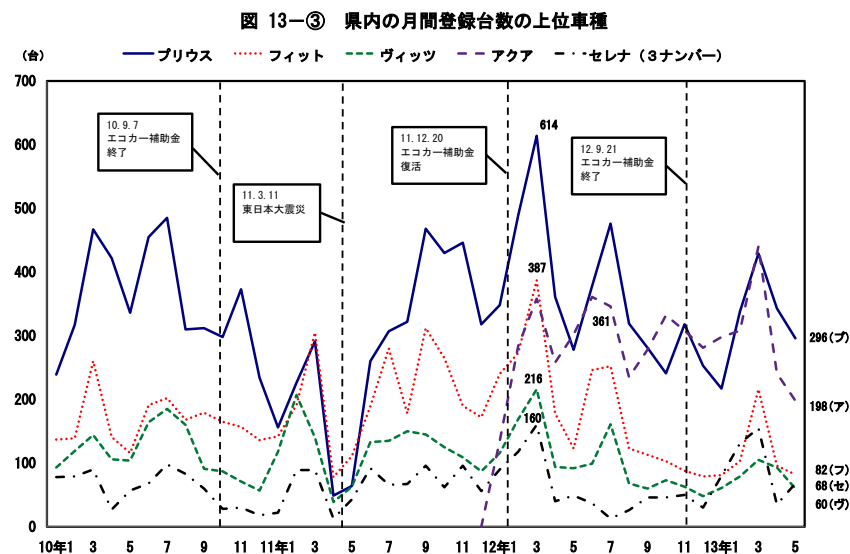
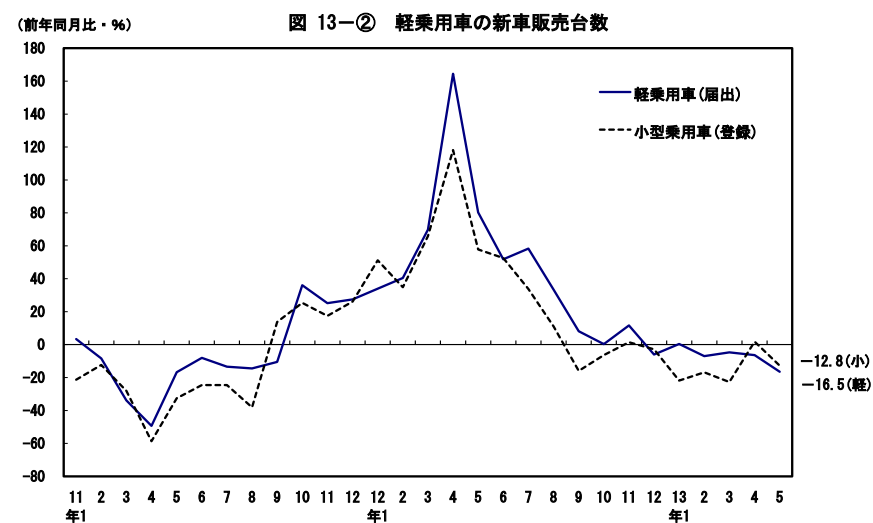
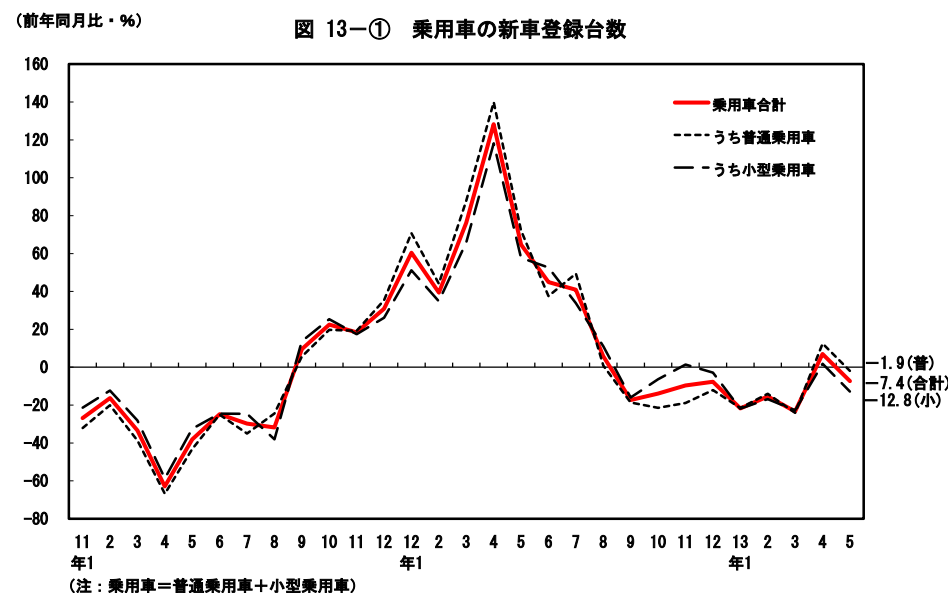
また、「既存店ベース(＝店舗調整後)」の売上高も5か月連続で前年を下回り、マイナス幅も拡大している(同-0.7%→同-1.3%→同-2.7%)(図11、図12-②、経済指標NO. 2)。



5月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」は、「普通乗用車(3ナンバー車)」が再び前年を下回り(1,270台、前年同月比-1.9%)、「小型乗用車(5ナンバー車)」も大幅のマイナスとなったため(1,131台、同-12.8%)、2車種合計では再びマイナスとなった(2,401台、同-7.4%) (図13-①、図13-③、経済指標NO. 2)。今後の動向が注目される。

また、「軽乗用車」は4か月連続の大幅マイナスとなっている(1,740台、同-16.5%) (図13-②、経済指標NO. 2)。ただ、前年同月の実績がエコカー補助金の効果で高いため(2,084台、同+80.3%)、大幅のマイナスとなったもので、水準自体は高い。

図13 乗用車の新車登録台数(登録ナンバー別)と軽乗用車の新車販売台数



## 4. 民間設備投資…「民間非居住用建築着工床面積」は、 2か月連続の大幅プラス

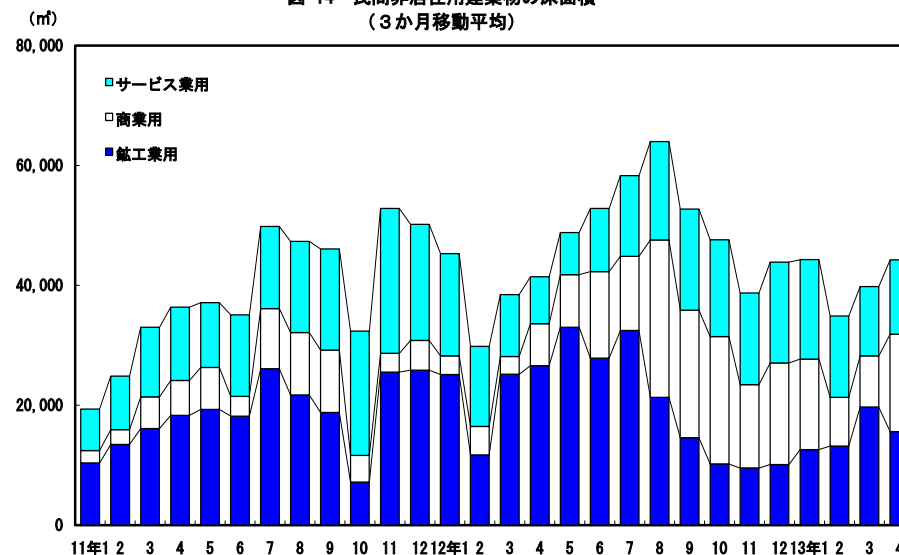
民間設備投資と関連の深い「民間非居住用建築着工床面積」（5月）は44,870㎡、前年同月比+53.9%で、2か月連続の大幅プラスとなった（経済指標NO. 3）。業種別にみると、「鉱工業用」は3か月連続のマイナスとなっているものの、「商業用」と「サービス業用」が前年を大きく上回った（「鉱工業用」：6,401㎡、同-38.9%、「商業用」：24,238㎡、同+88.7%、「サービス業用」：14,231㎡、前年比+144.4%）。

月々の季節変動を3か月移動平均で調整すると（図14）、4月は44,258㎡、同+6.8%で3か月連続のプラスとなっている。業種別に多い順に並べると、「商業用」16,244㎡、同+132.7%、「鉱工業用」15,620㎡、同-41.3%、「サービス業用」12,395㎡、同+58.2%となった。

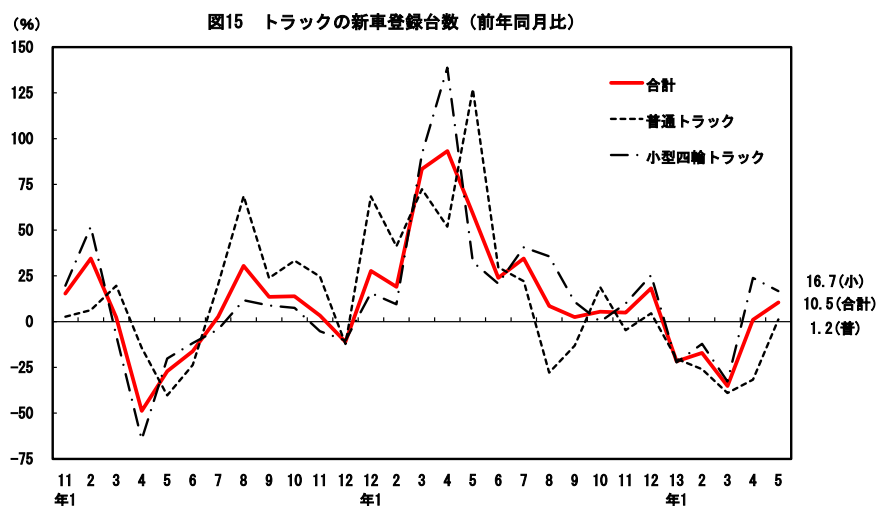
### 【5月の主な業種別・地域別申請状況】

- (イ) 「鉱工業用」：野洲市（2,858㎡）など
- (ロ) 「商業用」：甲賀市（10,468㎡）、長浜市（4,469㎡）、栗東市（4,181㎡）、米原市（2,767㎡）など
- (ハ) 「サービス業用」：近江八幡市（6,299㎡）、草津市（2,739㎡）など

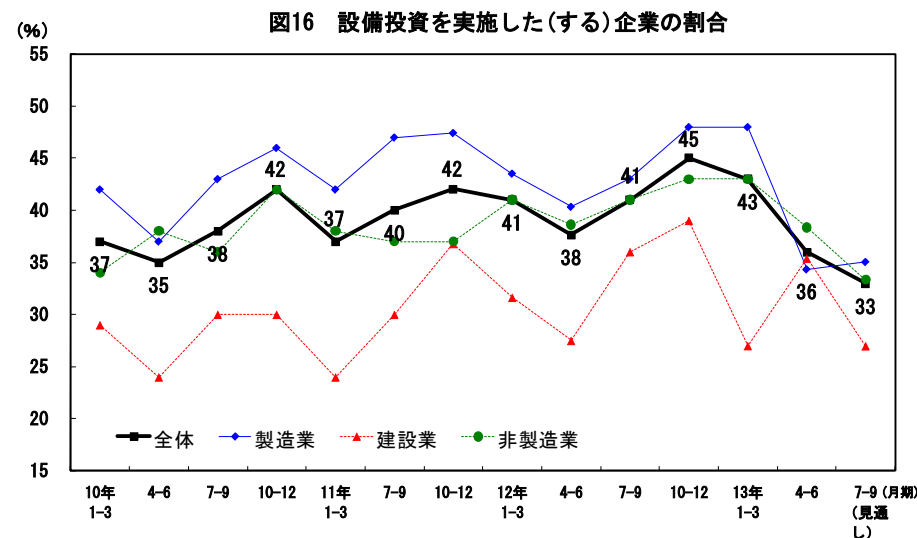
図 14 民間非居住用建築物の床面積  
（3か月移動平均）



また、5月のトラック新車登録台数は、「普通トラック(1ナンバー車)」は5か月ぶりのプラスとなり(85台、同+1.2%)、「小型四輪トラック(4ナンバー車)」も2か月連続の大幅プラスとなったため(147台、同+16.7%)、2車種合計では前月に続きプラスとなった(232台、同+10.5%)(図15)。



(株)しがぎん経済文化センターが5月に実施した「県内企業動向調査」(最終集計)によると(有効回答数388社)(図16)、4-6月期に設備投資を「実施」した(する)割合は、前期(43%)から-7ポイントの36%と3割台に低下。次期の7-9月期は33%とさらに低下の見通し。



当期の設備投資「実施」企業の主な投資内容は、「生産・営業用設備の更新」(28%)が最も多い。業種別にみると、製造業では「生産・営業用設備の更新」(34%)、建設業と非製造業ではともに「車両の購入」(順に47%、29%)が最も多い。

設備投資実施(13/4-6月期)の主な内容(複数回答)

	生産・営業用設備の更新	生産・営業用設備の新規導入	土地購入	建物の増改築	建物の新築	車両の購入	OA機器の購入	ソフトウェアの購入	その他
全体	28	22	3	11	5	23	18	11	3
製造業	34	28	0	9	4	13	11	7	1
建設業	32	16	5	5	5	47	42	26	11
非製造業	19	16	6	16	6	29	19	11	3

## 5. 新設住宅着工…4か月連続の前年比プラス

5月の「新設住宅着工戸数」は738戸、前年同月比+1.1%で、4か月連続のプラスとなっている(図17、経済指標NO. 4)。

利用関係別でみると(図18、経済指標NO. 4)、「持家」は449戸、同+17.8%(大津市116戸、長浜市62戸など)で9か月連続かつ大幅のプラスとなり、好調に推移している。一方、「貸家」は131戸、同-20.6%(大津市51戸など)で、4か月ぶりに前年を大きく下回った。「分譲住宅」も前月と同じ157戸、同-14.7%(草津市60戸、大津市56戸など)で、これも4か月ぶりの大幅マイナスとなった。分譲住宅の内訳をみると、「一戸建て」は7か月連続で前年を大きく上回っているものの(110戸、前年差+18戸)、「分譲マンション」は3か月ぶりに前年を下回った(47戸、同-45戸)(図19、図20)。5月の分譲マンション新規販売率(1月からの新規販売戸数累計:184戸/同新規供給戸数累計:205戸)は89.8%と、好不調の境目といわれる70%を大きく上回っている(参考:近畿全体では82.3%)。なお、給与住宅は1戸。

図 17 新設住宅着工戸数の推移  
(近畿、全国との比較)

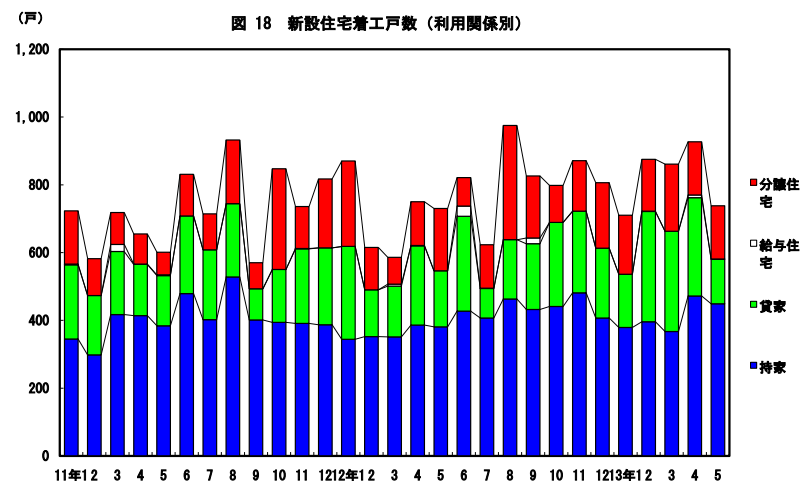
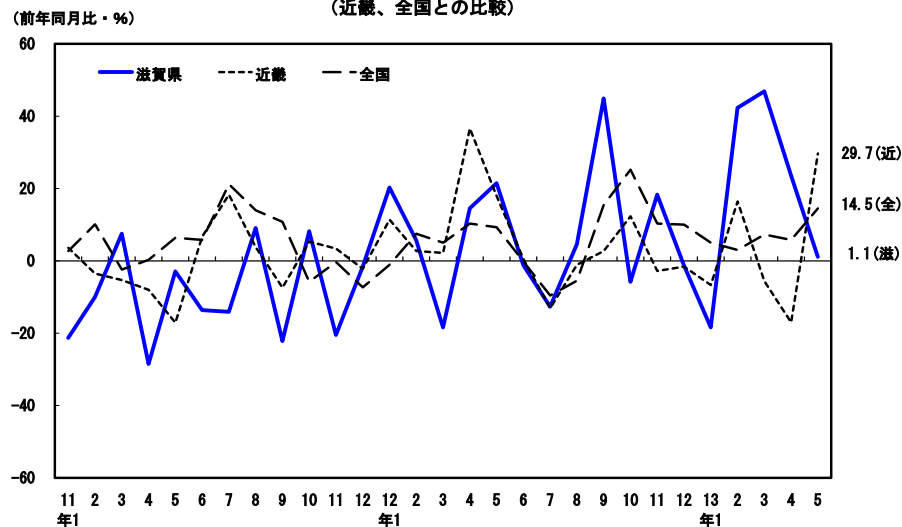


図 19 一戸建て分譲住宅の着工動向

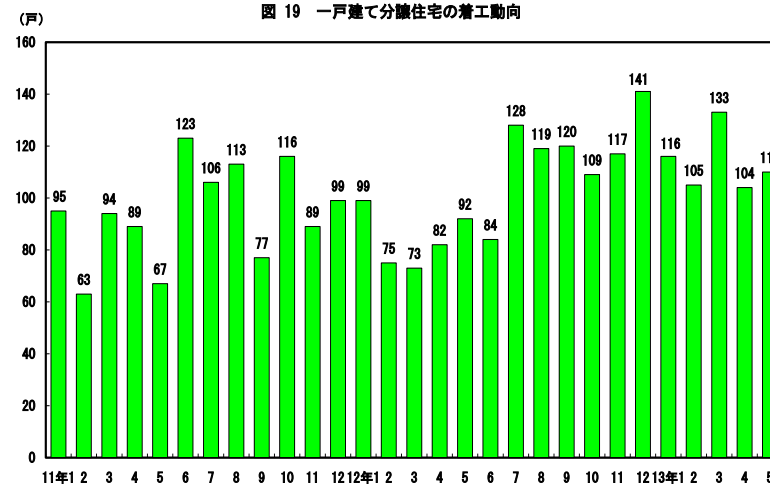
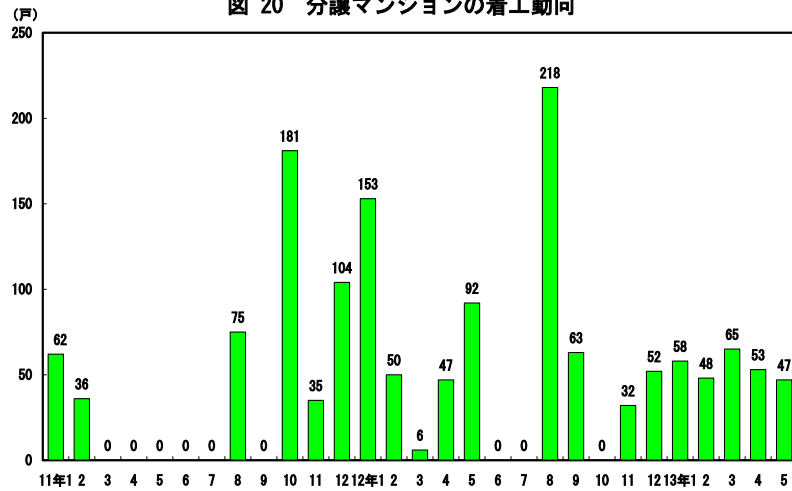
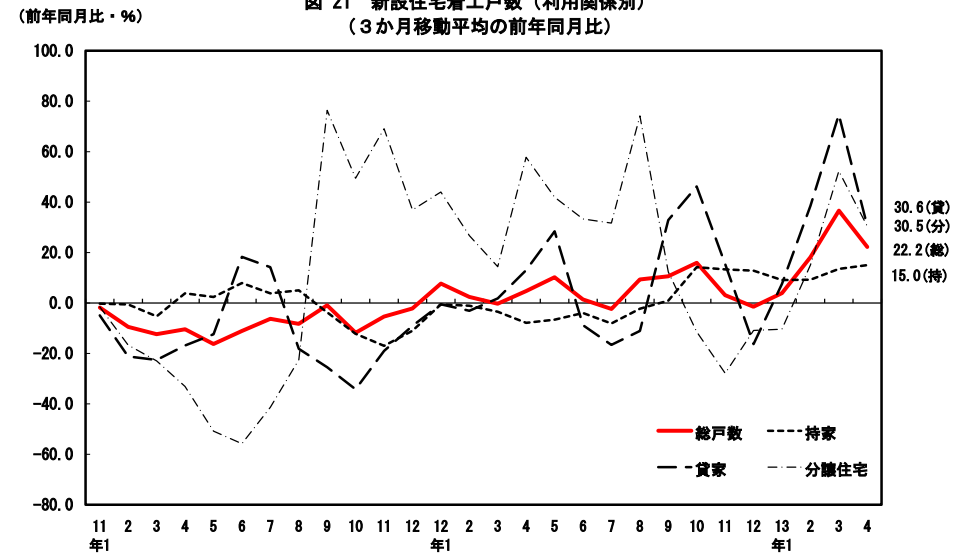


図 20 分譲マンションの着工動向



月々の季節変動を3か月移動平均で調整すると(4月)、総戸数では842戸、同+22.2%で4か月連続の大幅プラスとなっている。利用関係別にみると、「持家」は8か月連続(429戸、同+15.0%)、「貸家」は4か月連続(239戸、同+30.6%)、「分譲住宅」も3か月連続の大幅プラスとなっている(171戸、同+30.5%) (図21)。

図 21 新設住宅着工戸数(利用関係別)  
(3か月移動平均の前年同月比)



## 6. 公共工事… 3か月連続で請負件数、金額ともにプラス

5月の西日本建設業保証(株)の保証による公共工事の請負件数と金額は、155件(前年同月比+44.9%)、約128億円(同+5.3%)で、件数、金額ともに前年を上回った。件数は4か月連続、金額は3か月連続のプラス(図22、図23、図24、経済指標NO. 4)。

請負金額を発注者別で多い順から並べると、「市町村」(約68億円、同+140.4%)、「県」(約30億円、同+69.1%)、「国」(約14億円、前年同月の31.2倍)、「独立行政法人」(約9億円、同-36.6%)、「その他」(約7億円、同-88.9%)(図22、図23)。

### 《5月の主な大型工事(3億円以上)》

- 国 : (この基準規模では該当工事なし)
- 独立行政法人 : 新名神大津事務所新築工事(西日本高速道路(株)関西支社、工事場所:大津市)
- 県 : 間田(はさまた)長浜線補助道路整備工事(同:長浜市)  
西部幹線下流5工区送水管工事(同:栗東市)
- 市町村 : 長浜市役所新庁舎建設工事(建築工事)  
的場井川第四雨水幹線雨水渠築造工事(長浜市)  
東近江市立湖東第三小学校大規模改修・EV棟増築工事
- その他 : 近江大橋主桁改築工事(滋賀県道路公社、同:草津市)

図 22 公共工事請負額

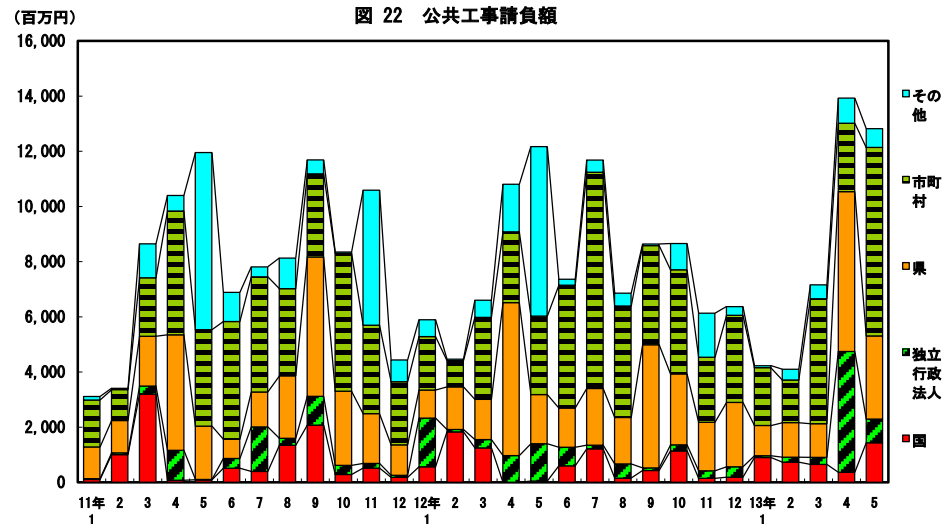
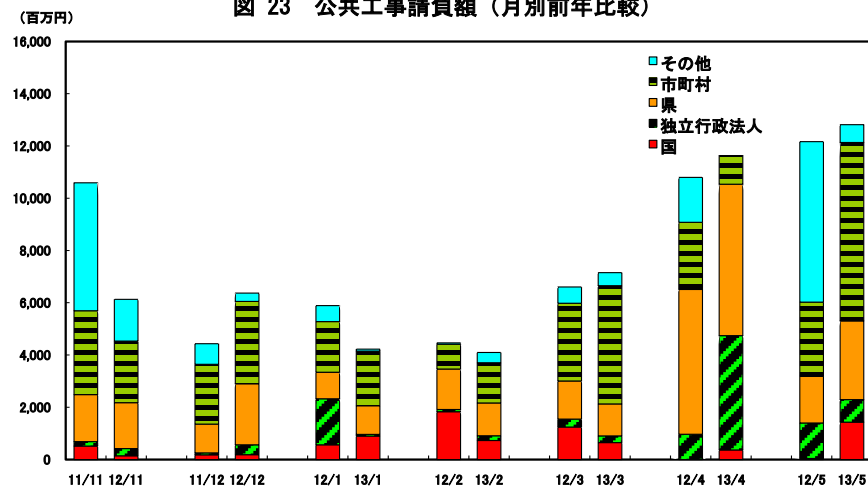
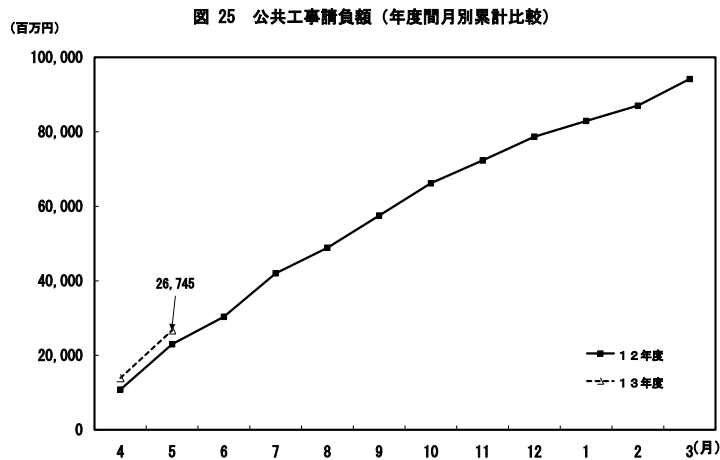
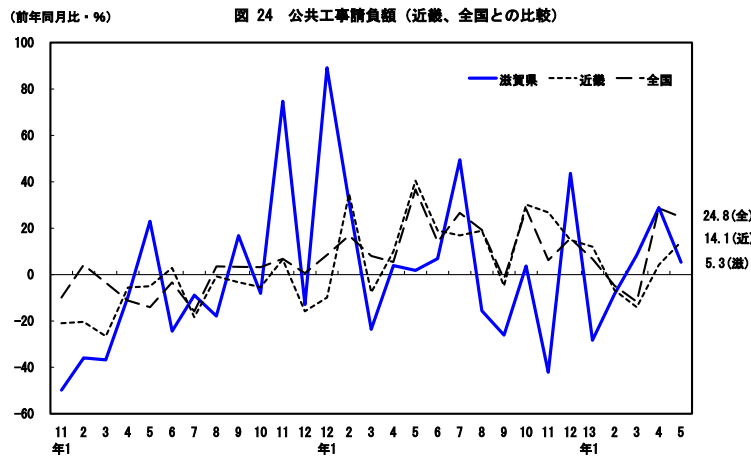


図 23 公共工事請負額(月別前年比較)

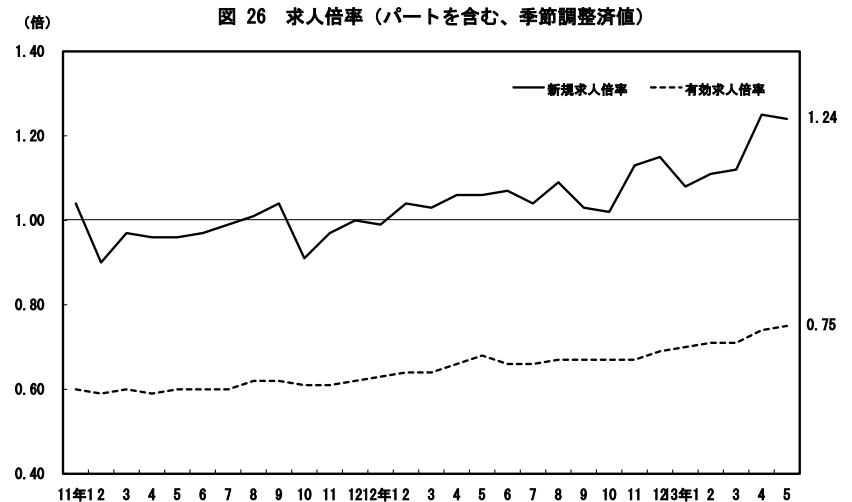


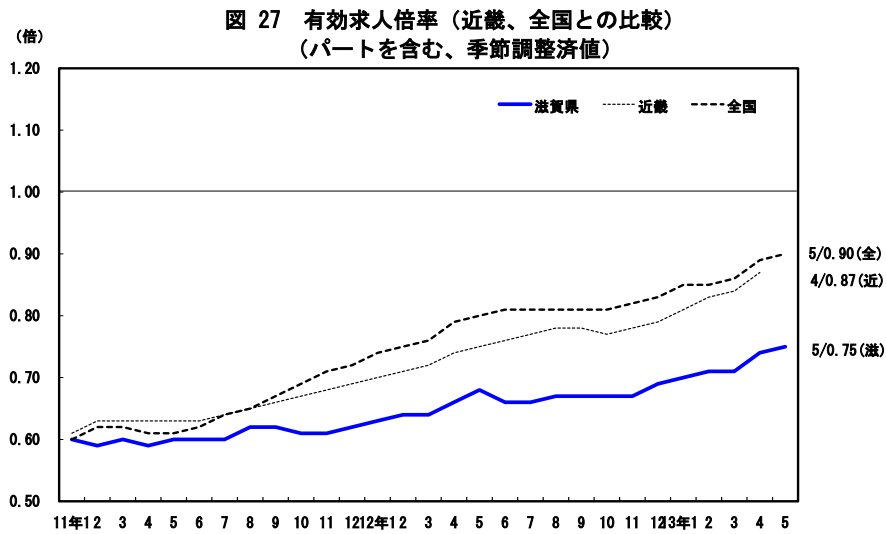




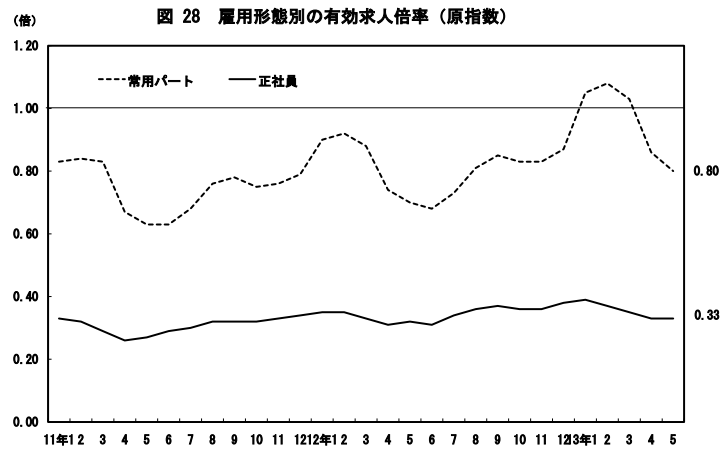
## 7. 雇 用…「有効求人倍率」は2か月連続で前月を上回る

5月の「新規求人数(パートを含む)」は7,775人(前年同月比+12.5%)で、8か月連続の大幅プラスとなり、一方、「新規求職者数(同)」は7,205人(同-5.7%)で、3か月連続のマイナスとなっている(経済指標NO.5)。この結果、「新規求人倍率(パートを含む、季節調整済値)」は1.24倍で、前月と同水準となり(前月差-0.01ポイント)、「有効求人倍率(同)」は0.75倍となり2か月連続で前月を上回ったが(同+0.01ポイント)、全国レベル(0.90倍)を28か月連続で大きく下回っている(-0.15ポイント)(図26、図27、経済指標NO.5)。

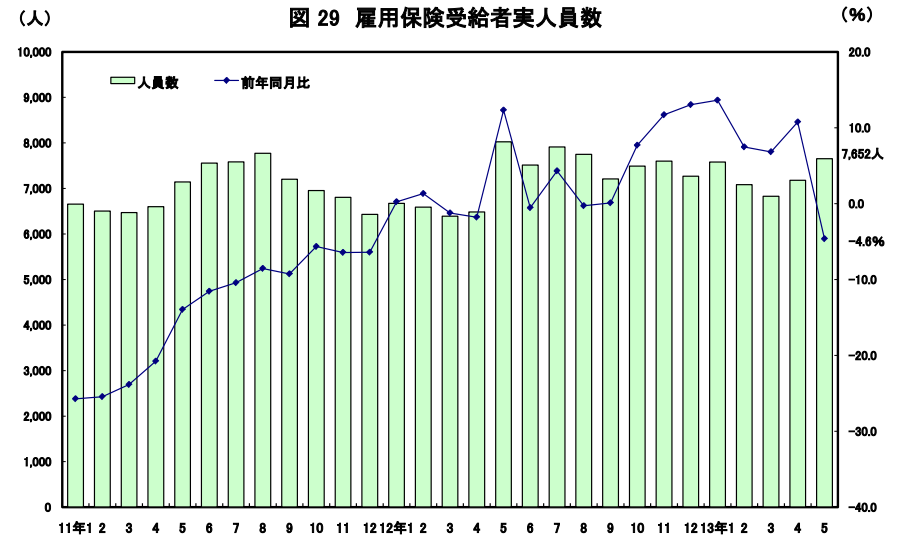




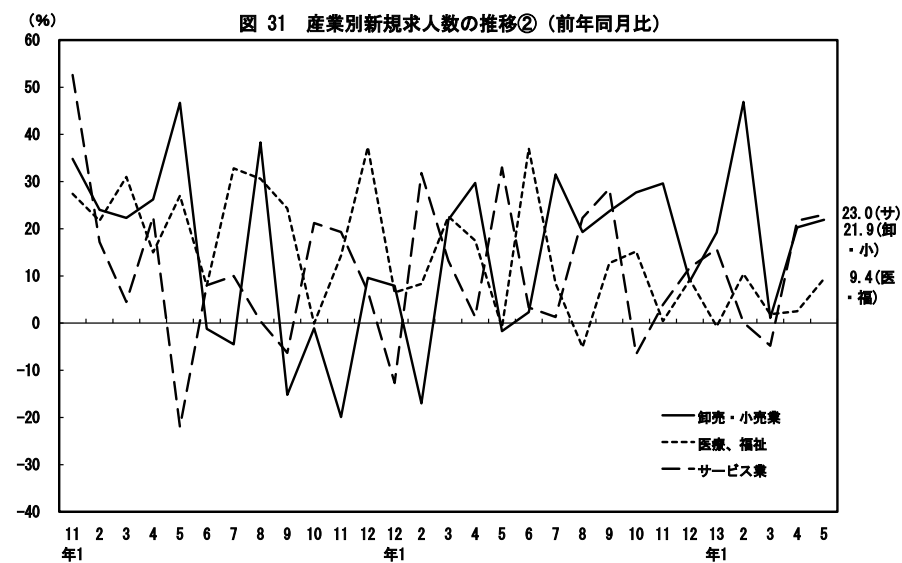
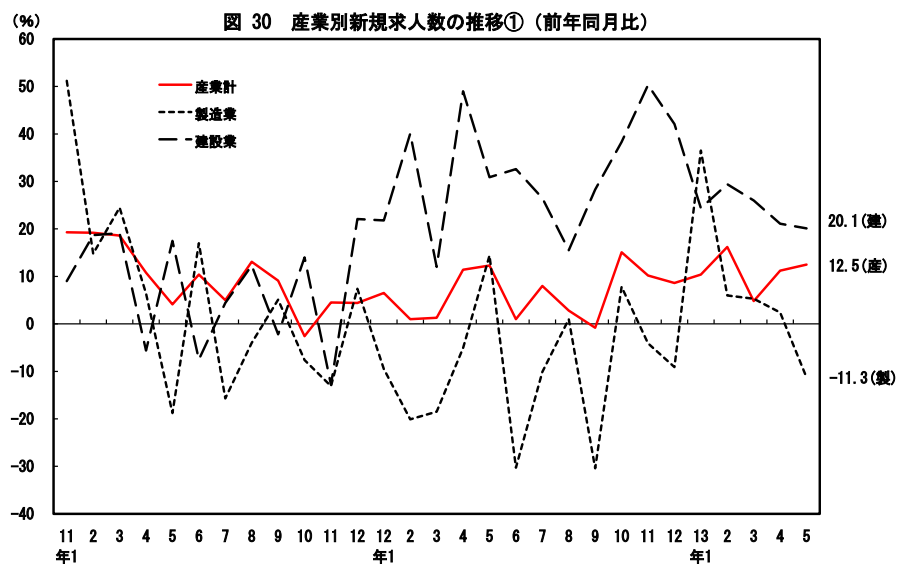
雇用形態別に有効求人倍率（原指数）をみると（5月）（図28）、「常用パート」は0.80倍（前月差-0.06倍）となり、前月に続き1倍を下回った。「正社員」は0.33倍（前月と同じ）で、依然、低水準に止まっている。



5月の「雇用保険受給者実人員数」は7,652人、同-4.6%で、9か月ぶりに前年を下回った（図29）（経済指標NO. 5）。今後の動向を注視する必要がある。



5月の産業別の「新規求人数」をみると（図30、図31）、「製造業」が5か月ぶりに前年を大きく下回ったものの（1,104人、同-11.3%）、ウエートの高い「医療、福祉」が4か月連続のプラスとなっている（1,372人、同+9.4%）のをはじめ、「建設業」は18か月連続（443人、同+20.1%）、「卸売業、小売業」は12か月連続（990人、同+21.9%）、「サービス業」も2か月連続のプラスとなっている（1,161人、同+23.0%）。



「常用雇用指数(事業所規模30人以上、2010年=100)」は、4月101.8、同+0.7%で、3か月連続のプラスとなっている。また、「製造業の所定外労働時間指数(同)」は115.6、同+2.2%で、3か月ぶりに前年を上回った(図32、図33、経済指標NO. 6)。

図 32 常用雇用指数と所定外労働時間指数  
(2010年=100)

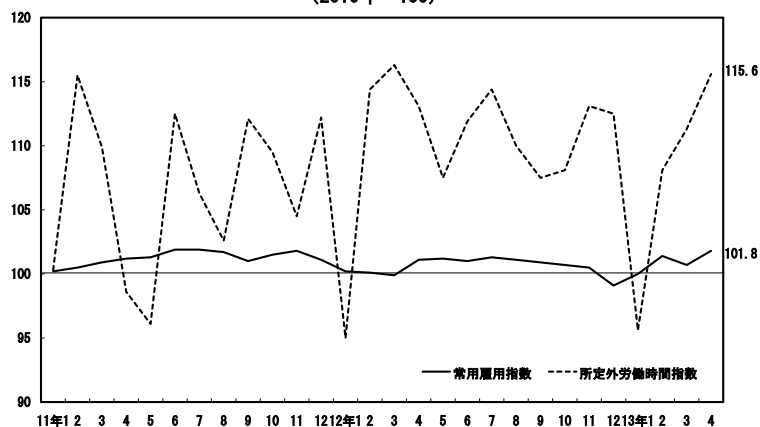
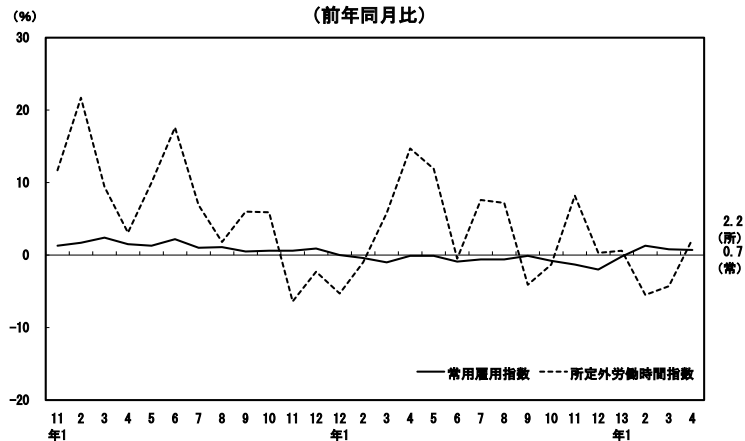
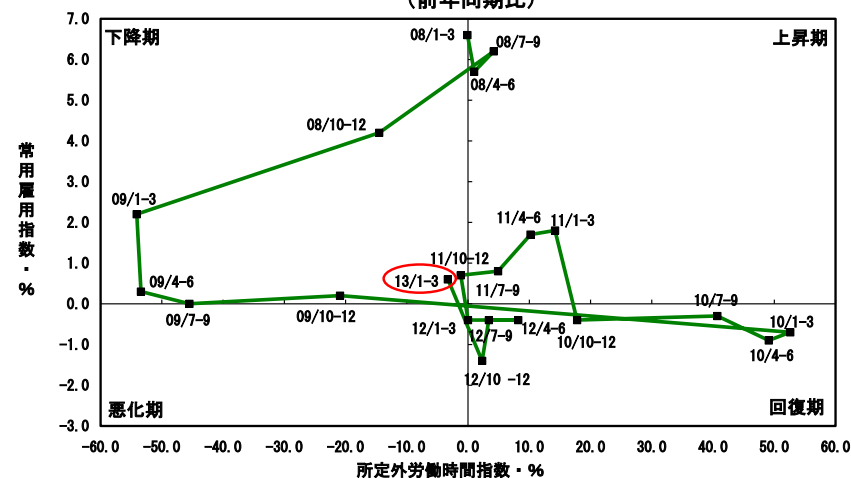


図 33 常用雇用指数と所定外労働時間指数  
(前年同月比)



1 - 3月期の両指数の前年同期比増加率をみると(図34)、常用雇用指数は5四半期ぶりのプラスとなったものの(前年同期比+0.6%)、所定外労働時間指数は5四半期ぶりのマイナスとなったため(同-3.3%)、「回復期」から「下降期」に入った。今後の動向が注目される。

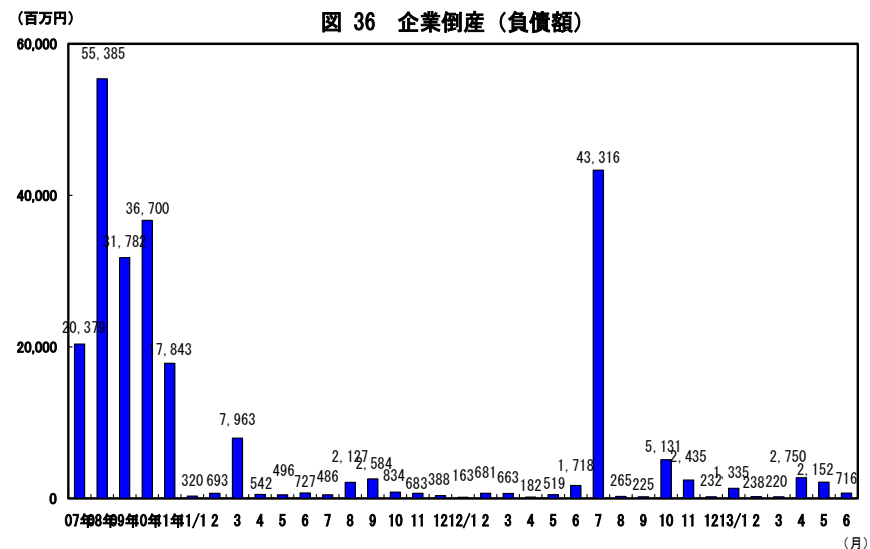
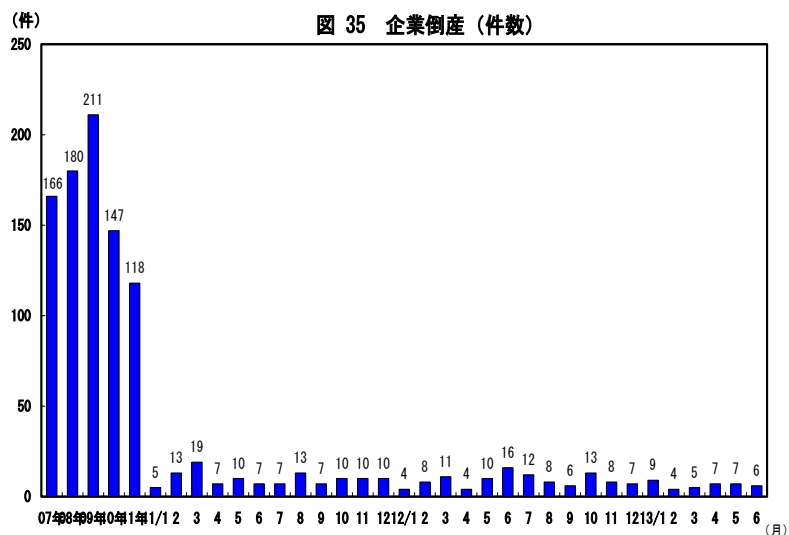
図 34 常用雇用指数と所定外労働時間指数  
(前年同期比)



## 8. 倒産…件数は8か月連続の一ケタ、負債総額は大幅減

㈱東京商工リサーチ滋賀支店のまとめによる6月の「負債金額10百万円以上」の倒産件数は6件（前年差-10件）で前年を大きく下回り、8か月連続の一ケタで推移し、負債総額は約716百万円（同-1,002百万円）で、負債総額10億円超の大型倒産はなく、前年を大きく下回った(図35、図36、経済指標NO. 6)。

業種別では「建設業」と「サービス業、他」が各2件ずつ、「製造業」と「卸売業」が各1件ずつ。原因別では「販売不振」が4件、「放漫経営」が2件。資本金別では6件のうち4件が「1千万円未満」。



## 9. 県内主要観光地の観光客数

### 【①大津南部・湖南エリア+シネマ】

ミシガン+ピアンカ……………	5月	18,407人	(前年同月比 + 5.8%)
県立琵琶湖博物館……………	5月	35,090人	(同 -12.6%)
びわ湖鮎家の郷……………	5月	21,929人	(同 -17.2%)
主要3シネマコンプレックス……………	5月	28,939人	(同 -28.6%)

### 【②大津西部エリア】

道の駅：びわ湖大橋米プラザ…	5月	62,165人	(同 + 4.4%)
比叡山ドライブウェイ……………	5月	63,292人	(同 - 1.9%)
奥比叡ドライブウェイ……………	5月	37,085人	(同 - 4.6%)

図 37-① 県内主要観光地の入込客数の推移  
大津南部・湖南エリア+シネマ (前年同月比)

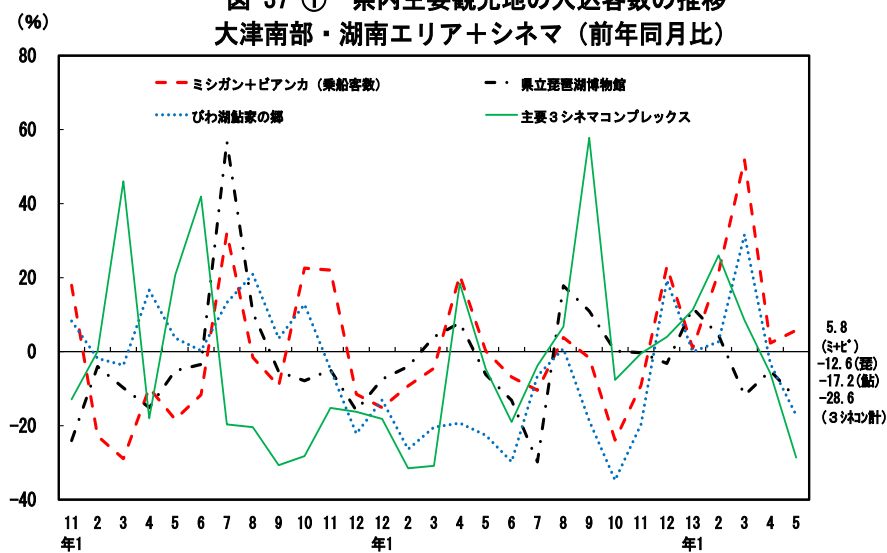
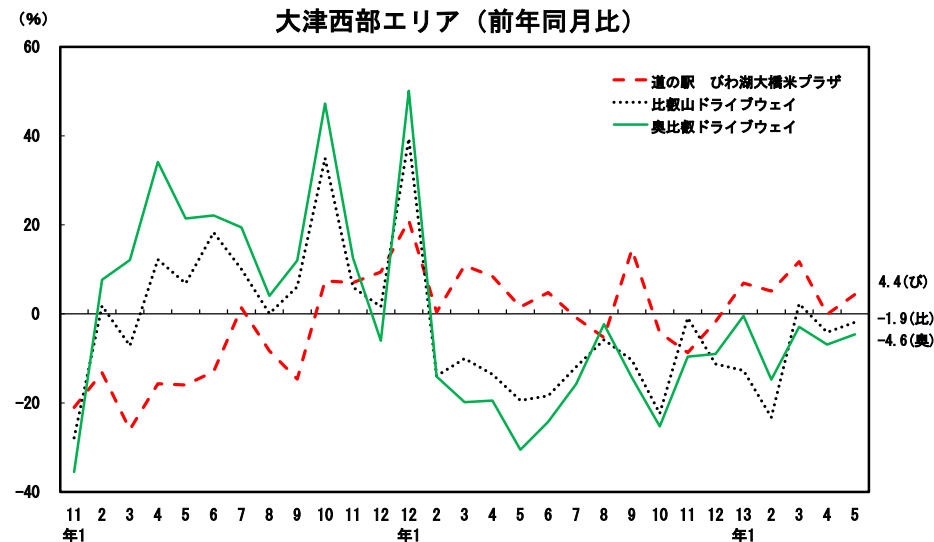


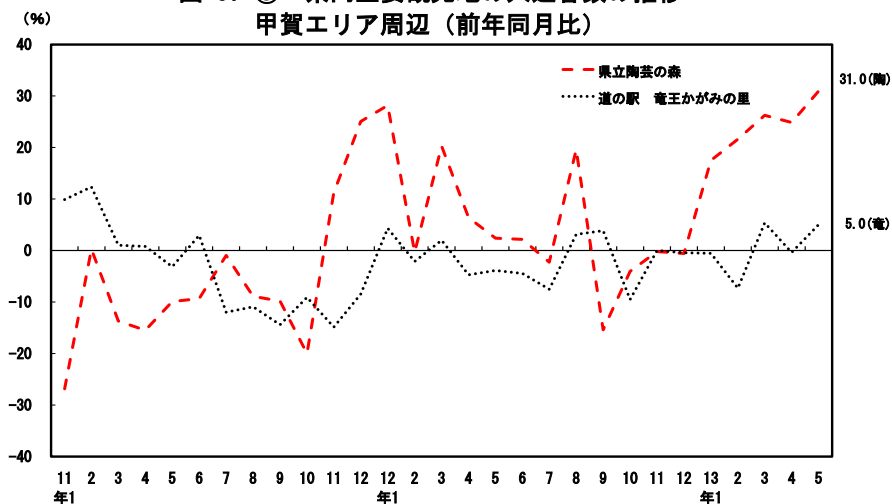
図 37-② 県内主要観光地の入込客数の推移  
大津西部エリア (前年同月比)



【③甲賀エリア周辺】

県立陶芸の森……………5月 51,404人 (同 +31.0%)  
 道の駅：竜王かがみの里……………5月 69,237人 (同 + 5.0%)  
 (4月は58,106人、同-0.4%に修正)

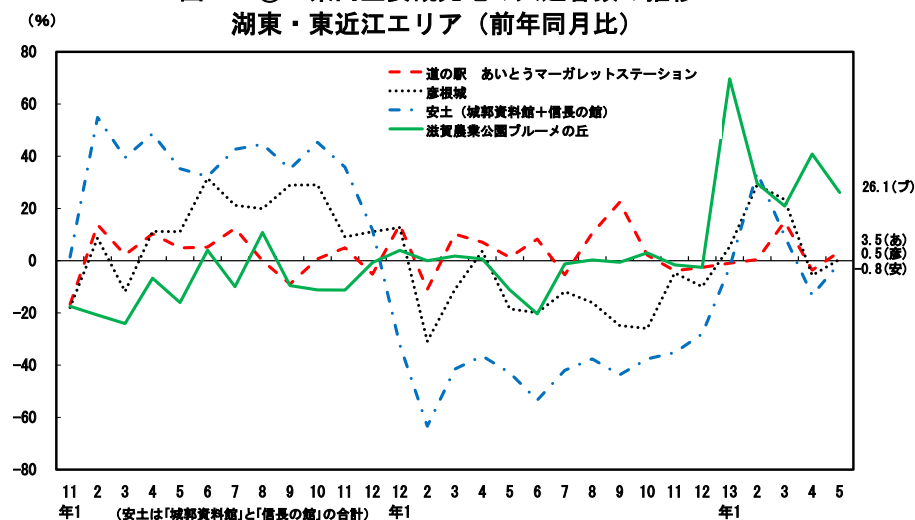
図 37-③ 県内主要観光地の入込客数の推移  
 甲賀エリア周辺 (前年同月比)



【④湖東・東近江エリア】

道の駅：あいとうマージレットステーション …5月 52,374人 (同 + 3.5%)  
 彦根城……………5月 84,038人 (同 + 0.5%)  
 安土(城郭資料館+信長の館)……………5月 11,242人 (同 - 0.8%)  
 滋賀農業公園ブルーメの丘……………5月 60,887人 (同 +26.1%)

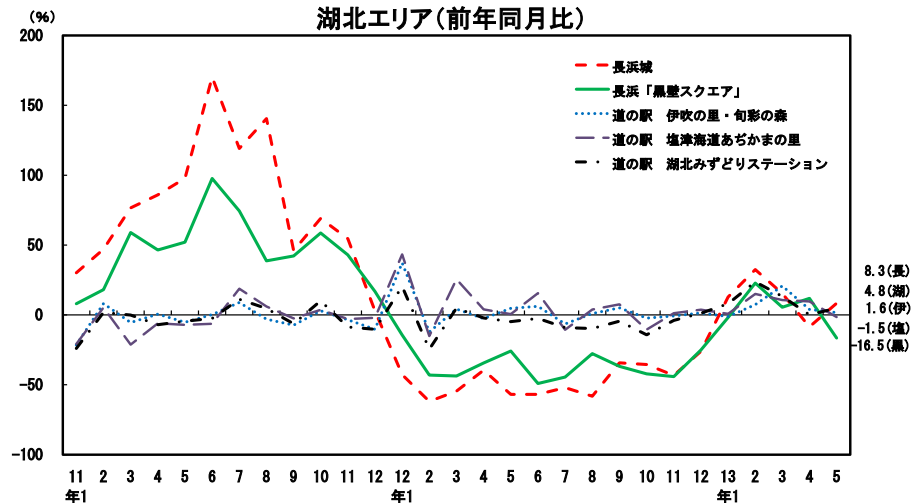
図 37-④ 県内主要観光地の入込客数の推移  
 湖東・東近江エリア (前年同月比)



【⑤湖北エリア】

長浜城……………5月 17,099人 (同 + 8.3%)  
 長浜「黒壁スクエア」……………5月 142,132人 (同 -16.5%)  
 (4月は132,444人、同+11.8%に修正)  
 道の駅：伊吹の里・旬彩の森……………5月 40,101人 (同 + 1.6%)  
 // : 塩津海道あぢかまの里……………5月 49,560人 (同 - 1.5%)  
 // : 湖北みずどりステーション……………5月 48,434人 (同 + 4.8%)

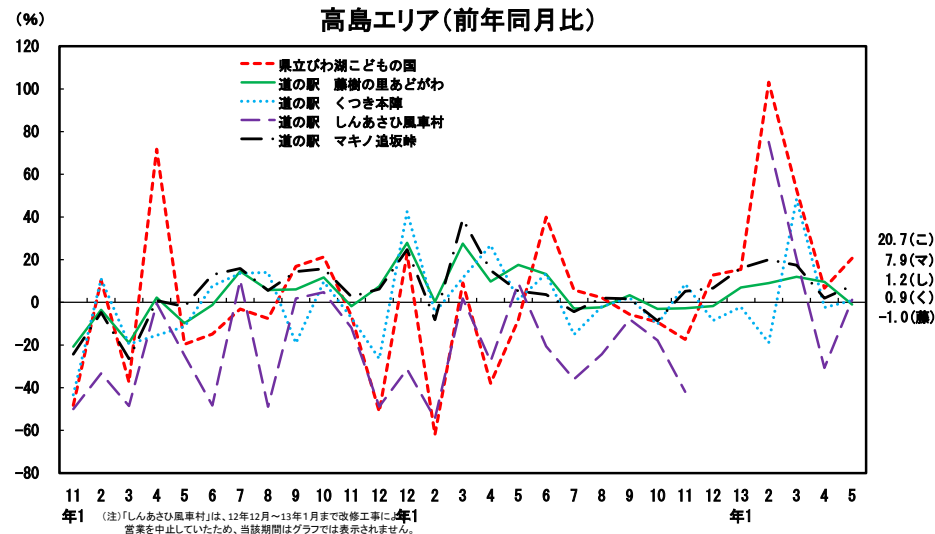
図 37-⑤ 県内主要観光地の入込客数の推移  
湖北エリア(前年同月比)



【⑥高島エリア】

県立びわ湖こどもの国……………5月 36,973人 (同 +20.7%)  
 道の駅：藤樹の里あどがわ……………5月 77,000人 (同 - 1.0%)  
 // : くつき本陣……………5月 35,258人 (同 + 0.9%)  
 // : しんあさひ風車村……………5月 29,898人 (同 + 1.2%)  
 // : マキノ追坂峠……………5月 22,588人 (同 + 7.9%)

図 37-⑥ 県内主要観光地の入込客数の推移  
高島エリア(前年同月比)





## 10. 地場産業の動向

### ①長浜縮緬業界：低調に推移

円安により生糸の仕入価格が前年対比で2倍以上に高騰しているが、価格転嫁できていない。25年6月の売上は前年同月比12.0%減と低調であった。

### ②信楽陶器業界：低調に推移

25年5月の売上は前年同月比10.1%減であったが、6月は同0.3%減とほぼ例年並。6月28日には、『甲賀観光フォーラム in 陶芸の森』（主催：甲賀ブランド推進協議会、共催：信楽町観光協会・甲賀市観光協会）が開催された。約200名が参加され、大変盛況であった。また、7月28日までビール会社とタイアップし、信楽産業展示館で『信楽焼 BEER CUP 展』を開催中である。

### ③彦根バルブ業界：低調に推移

滋賀バルブ協同組合によると、24年下期（6月～12月）のバルブ生産高は、前年同月比2.8%減の113億100万円となった。この結果、24年通期の生産高は、前年比較1.1%増（2億2,600万円増）の214億5,800万円となった。

25年通期の見通しは、新政権の経済再生への積極的な取り組みや、上下水道部門におけるインフラ老朽化問題の取組強化も予想され、水道用弁・産業用弁の需要増が期待される。船用弁は円安による造船業界の回復が期待され、業界全体として生産高は増加すると予想している。

### ④湖東麻織物業界：低調に推移

東近江市商工会五個荘支部の結婚式事業で、湖東地域特産の「近江の麻」で仕立てた華やかなウェディングドレスとタキシードを新たに採用した。6月22日には同市宮荘町の藤井彦四郎邸で模擬結婚式を開催し、地域豊かな婚礼がPRされた。

また、蒸し暑い夏に向け涼しい着心地の地元麻織物をPRすること

を目的に、7月1日から5日まで東近江市役所のロビーで『蒸し暑い夏は麻織物を』と「近江の麻」と「近江ちぢみ」を使ったシャツやドレスなど約30点が展示された。

### ⑤高島織物産地：低調に推移

円安の影響による糸値の高騰は一服したが、中国の綿花価格上昇から東アジアの綿糸価格は上昇基調であり、今後、糸値の引上げが懸念される。

『高島帆布』が一般商標として登録された。今後、需要拡大とともに新規顧客開拓に活用されることが期待される。

### ⑥甲賀町製薬業界：低調に推移

25年4月厚生労働省より「後発医薬品のさらなる使用促進のロードマップ」が公表された。新基準での数量シェアを30年3月末までに60%以上にする計画であり、ジェネリック医薬品メーカーにとっては売上増加の追い風が見込まれる。大手製薬会社からの受託加工については、安定的に受注を確保している。

## 《トピックス》

### 【県内土地の路線価】

#### ー 4 税務署で下げ止まりー

- ◆大阪国税局が7月1日に発表した県内7税務署の2013年の最高路線価（1月1日現在、相続税などを算出する際の基準）は、7税務署のうち草津、大津、近江八幡、長浜の4税務署で前年水準を維持し、一方、彦根、水口、今津の3税務署では下げ幅が拡大した。
- ◆県内の最高路線価は草津署内のJR草津駅東口広場（大路1丁目）で、1㎡あたり24万5千円となり、16年連続のトップ。

#### 県内7税務署管内の最高路線価

（1㎡あたり、単位：円、％）

税務署名	所在地	2013年	2012年	変動率
草津	JR草津駅東口広場 （草津市大路1丁目）	245,000	245,000	0.0
大津	JR大津駅前通り （大津市春日町）	225,000	225,000	0.0
近江八幡	JR近江八幡駅前広場 （近江八幡市鷹飼町）	115,000	115,000	0.0
彦根	JR彦根駅前 （彦根市大東町）	100,000	105,000	-4.8
長浜	JR長浜駅前 （長浜市北船町）	100,000	100,000	0.0
水口	県道大野名坂線 （甲賀市水口町本綾野）	63,000	65,000	-3.1
今津	JR安曇川駅前東広場 （高島市安曇川町末広1丁目）	39,000	41,000	-4.9

## 《ご参考①：国内景気の動向》（25年6月13日：内閣府）

### 月例経済報告

平成25年6月

#### 総論

（我が国経済の基調判断）

景気は、着実に持ち直している。

- ・輸出は、持ち直しの動きがみられる。生産は、持ち直している。
- ・企業収益は、製造業を中心に改善している。設備投資は、下げ止まりつつある。
- ・企業の業況判断は、改善の動きがみられる。
- ・雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善している。
- ・個人消費は、持ち直している。
- ・物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にあるものの、このところ一部に変化の兆しもみられる。

先行きについては、輸出が持ち直し、各種政策の効果が発現するなかで、企業収益の改善が家計所得や投資の増加につながり、景気回復へ向かうことが期待される。ただし、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっている。

（政策の基本的態度）

政府は、大震災からの復興を加速させるとともに、デフレからの早期脱却と経済再生の実現に向けて全力で取り組む。このため、「再生の10年」に向けた基本戦略を示す「骨太方針（仮称）」及び「成長戦略（仮称）」を取りまとめる。

日本銀行には、2%の物価安定目標をできるだけ早期に実現することを期待する。

【参考】先月からの主要変更点

	5月月例	6月月例
基調判断	<p>景気は、緩やかに持ち直している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輸出は、持ち直しの兆しがみられる。</li> <li>・生産は、緩やかに持ち直している。</li> <li>・企業収益は、大企業を中心に改善の動きがみられる。設備投資は、下げ止まりつつある。</li> <li>・企業の業況判断は、改善の動きがみられる。</li> <li>・雇用情勢は、依然として厳しさが残るものの、このところ改善の動きがみられる。</li> <li>・個人消費は、持ち直している。</li> <li>・物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にあるものの、このところ一部に変化の兆しもみられる。</li> </ul> <p>先行きについては、輸出環境の改善や経済対策、金融政策の効果などを背景に、マインドの改善にも支えられ、次第に景気回復へ向かうことが期待される。ただし、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、雇用・所得環境の先行き等にも注意が必要である。</p>	<p>景気は、着実に持ち直している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輸出は、持ち直しの動きがみられる。</li> <li>・生産は、持ち直している。</li> <li>・企業収益は、製造業を中心に改善している。設備投資は、下げ止まりつつある。</li> <li>・企業の業況判断は、改善の動きがみられる。</li> <li>・雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善している。</li> <li>・個人消費は、持ち直している。</li> <li>・物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にあるものの、このところ一部に変化の兆しもみられる。</li> </ul> <p>先行きについては、輸出が持ち直し、各種政策の効果が発現するなかで、企業収益の改善が家計所得や投資の増加につながり、景気回復へ向かうことが期待される。ただし、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっている。</p>
政策態度	<p>政府は、日本経済を大胆に再生させるため、大震災からの復興を前進させるとともに、「成長と富の創出の好循環」へと転換し、「強い経済」を取り戻すことに全力で取り組む。円高是正、デフレからの早期脱却のため、デフレ予想を払拭するとともに、機動的・強力的な経済財政運営により、景気の底割れを回避する。特に、最近、景気回復への期待等を背景に、株価の回復等もみられており、こうした改善の兆しを、適切な政策対応により景気回復につなげる。</p> <p>このため、政府は、平成 24 年度補正予算を含めた緊急経済対策の迅速かつ着実な実行に向けて、しっかりとした進捗管理を行うとともに、今般成立した平成 25 年度予算を着実に執行する。</p> <p>日本銀行には、2%の物価安定目標をできるだけ早期に実現することを期待する。</p>	<p>政府は、大震災からの復興を加速させるとともに、デフレからの早期脱却と経済再生の実現に向けて全力で取り組む。このため、「再生の 10 年」に向けた基本戦略を示す「骨太方針（仮称）」及び「成長戦略（仮称）」を取りまとめる。</p> <p>日本銀行には、2%の物価安定目標をできるだけ早期に実現することを期待する。</p>

	5月月例	6月月例
住宅建設	底堅い動きとなっている。	持ち直している。
公共投資	底堅い動きとなっている。	堅調に推移している。
輸出	持ち直しの兆しがみられる。	持ち直しの動きがみられる。
生産	緩やかに持ち直している。	持ち直している。
企業収益	大企業を中心に改善の動きがみられる。	製造業を中心に改善している。
倒産件数	このところ緩やかに減少している。	おおむね横ばいとなっている。
雇用情勢	依然として厳しさが残るものの、このところ改善の動きがみられる。	厳しさが残るものの、改善している。

(注) 下線部は先月から変更した部分。

## 《ご参考②：京滋の景気動向》(2013. 6. 5)



### 概況

京都府・滋賀県の景気は、下げ止まっており、持ち直しに向けた動きがみられる。

個人消費は、底堅い動きになっている。設備投資は、なお弱めとなっている。住宅投資は、増加傾向にある。公共投資は、基調として増加している。生産、輸出は、下げ止まっており、持ち直しに向けた動きがみられる。雇用・所得環境は、なお厳しい状態が続いているものの、緩やかに改善している。

管内金融経済概況 早見表 (矢印は前回公表からの変化)



### 《当報告書のご利用についての注意事項》

- ・当報告書は情報提供のみを唯一の目的として作成されたものであり、何らかの金融商品の取引勧誘を目的としたものではありません。
- ・当報告書は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行並びに当社はその正確性を保証するものではありません。内容は、予告なしに変更することがありますので、予めご了承ください。
- ・また、本報告書は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。
- ・なお、本報告書の内容に関するご照会は下記の担当者までご連絡ください。

照会先：(株)しがぎん経済文化センター（経済リサーチ部：志賀）

TEL：077-526-0005 E-mail：[keizai@keibun.co.jp](mailto:keizai@keibun.co.jp)

以上